

2025年12月 旅行取扱高状況報告

＜日本国内における旅行区分別取扱高＞

(単位:千円)

区分	取扱高	前年同月取扱高	前年同月比
海外旅行	30,499,667	27,429,123	111.2%
国内旅行	3,690,573	3,673,416	100.5%
訪日旅行	859,280	964,711	89.1%
合計	35,049,522	32,067,251	109.3%

※株式会社エイチ・アイ・エス及びグループ5社（株式会社オリオンツアーアジア、株式会社クオリタ、株式会社クルーズネット、株式会社ジャパンホリデーラベル、株式会社エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した旧会計基準の取扱高となります。

＜海外旅行取扱高 方面別・商品別・チャネル別データ＞

方面別	前年同月比
アジア	102.3%
オセアニア・南太平洋	92.5%
ハワイ・ミクロネシア	123.1%
欧州・中近東・アフリカ	128.7%
北米・中南米	93.6%

商品別	前年同月比
手配旅行	104.1%
企画旅行	125.0%
チャネル別	前年同月比
店舗	110.5%
オンライン	114.7%
法人	102.8%

■海外旅行

12月18日よりHIS最大規模のセールである「初夢フェア2026」を開催。春休みやゴールデンウイーク、初夏の出発を中心に、価格訴求型から高付加価値商品まで、幅広い旅行プランを展開しました。また、日並びが良く注目の高まる2027年のGWに向けた「ダイヤモンド・プリンセス」チャータークルーズをいち早く発売し、先々の需要の取り込みも図りました。

取扱高においては、最大9連休の年末年始効果もあり、長距離の欧州・中近東・アフリカ方面が前年同月比128.7%と好調に推移しました。また、着実な回復をみせるハワイ・ミクロネシアでは、同123.1%と前年を上回りました。その中でもグアムは、年末年始におけるチャーター便が完売するなど、家族旅行を中心に需要を喚起したことで、同156.2%とビーチリゾートの伸びを牽引しました。

以上の結果、海外旅行取扱高は、前年同月比111.2%の304億9,966万円となりました。

■国内旅行

「初夢フェア2026」にて最大20%割引クーポンや早期割引を実施し、冬から春の需要喚起に努めました。加えて、地元ならではの食事を堪能したいという需要が高いことから、「素泊まり・朝食付」といった自由度の高い温泉旅行を提案したほか、前年に反響のあった長崎方面でもキャンペーンを実施するなど、トレンドへの対応と重点地域への送客強化を図りました。

取扱高においては、ハウステンボスが盛況な九州方面が前年同月比105.8%と堅調に推移しました。バスツアーでは、イベントを重点領域に据えた集客を強化しており、愛知県での「航空祭（ブルーインパルス観覧）」など、地域密着型の体験型商品が、取扱高を下支えしたことで、同109.6%となりました。

以上の結果、国内旅行取扱高は、前年同月比100.5%の36億9,057万円となりました。

■訪日旅行

北米市場において、主力の団体旅行における「体験型シリーズツアー」が全体を牽引したほか、大学等の教育旅行団体の受入も積み上げに寄与しました。これらを含む欧米豪圏全体が堅調に推移するなか、個人旅行では東北の「キツネ村」を訪ねるツアーが人気を博しました。あわせて、関西での雪遊びやカニ食べ放題を盛り込んだバスツアーや、北海道の「知床オーロラ号」といった、アジア市場に支持された冬の体験型コンテンツが取扱高を堅実に積み上げ、HIS訪日旅行事業の12月取扱高は、前年同月比105.8%となりました。

グループ会社のジャパンホリデーラベルでは、大阪の「嵯峨野観光鉄道・保津川下り」ツアーが同152.9%と躍進した一方で、雪不足によるスキーツアーの中止や中国からの団体旅行の減少が重なり、前年同月を下回る結果となりました。

以上の結果、訪日旅行取扱高は、前年同月比89.1%の8億5,928万円となりました。

2025年12月の日本国内における旅行取扱高合計は、前年同月比109.3%の350億4,952万円となりました。

2025年12月 海外における旅行取扱高状況報告

＜ 海外における旅行区分別 ＞

(単位:千円)

区分	取扱高	前年同月取扱高	前年同月比
インバウンド	12,763,384	11,091,067	115.1%
アウトバウンド	11,287,759	12,411,681	90.9%
合計	24,051,144	23,502,749	102.3%

※エイチ・アイ・エス海外現地法人 31 社と海外子会社 4 ブランド (MIKI グループ、MERIT TRAVEL、JONVIEW CANADA、RED LABEL VACATIONS) の社内取引相殺前の取扱高となります。なお、為替換算レートにつきましては、期中平均レートにて算出しております。

※海外におけるインバウンドとは、各海外拠点における旅行受客業務の取扱高。 海外におけるアウトバウンドとは、各海外拠点における旅行送客業務の取扱高。

※HIS 欧州現地法人の一部と MIKI グループとの統合により調整後の取扱高を反映しております。

■ 海外インバウンド

ハワイ・グアムを中心としたビーチ方面が前年同月比 131.8%と好調に推移しました。ハワイでは、ホノルルでのマラソンイベントの現地手配や団体報奨旅行の受注が取扱高に貢献し、同 128.4%となりました。グアムにおいては、年末年始にあわせた日本からのチャーター便の就航により受客が大幅に増加し、同 152.8%となりました。また欧州では、アジア地域からの団体ツアーやオーダーメイドのツアーが好調であったイタリアにおいて、日本からの修学旅行における手配受注も加わり、同 141.3%となりました。カナダでは、オーストラリアや日本からのイスラーやバンフにおける長期滞在型スキー旅行が好調に推移し、同 141.7%となりました。

以上の結果、海外インバウンド取扱高は、前年同月比 115.1%の 127 億 6,338 万円となりました。

■ 海外アウトバウンド

インドネシアでは、B2B 向けに冬のアクティビティを盛り込んだ日本・北海道行きやベトナム北部の高原リゾートへのパッケージツアーが人気を集め、前年同月比 117.1%となりました。スペインでは、ローセーンながら B2B における北陸・東海エリアへの個人旅行需要を捉え、同 166.0%と大幅に伸長しました。一方カナダでは、カリブ海やメキシコといった温暖な地域が継続的に人気を集めたものの、政治・経済情勢の影響による米国行きの低迷により、同 97.3%に留まったほか、事業構造の改革を進めるトルコ法人の取扱高が同 9.8%と大幅に減少したこと全体の押し下げ要因となりました。

以上の結果、海外アウトバウンド取扱高は、前年同月比 90.9%の 112 億 8,775 万円となりました。

2025年12月の海外の旅行事業取扱高合計は、前年同月比 102.3%の 240 億 5,114 万円となりました。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社エイチ・アイ・エス I R室 : 050-1746-4188

広報室 : 050-1746-4177